

英語史 — 英語の見方を
180 度変える「開眼」体験

慶應義塾大学 堀田隆一

巣鴨学園 2018 年 10 月 6 日

そのとき英語が動いた！

1. 11 世紀，ノルマン人によるイングランド征服が，英単語学習を厄介にした！？
2. 14 世紀，ヨーロッパを襲った黒死病が，英語の世界化に一役買った！？
3. 16 世紀，エリザベス女王が未婚で亡くなったために，do の疑問文・否定文が広まった！？

問1：なぜ「あなた」は英語を学ぶ のですか？

グループで理由をいくつか挙げてみよう！

-
-
-
-
-
-
-
-

問2：なぜ「世界の人々」は英語を 学ぶのでしょうか？

1. 国際コミュニケーションのため
2. 国内コミュニケーションのため
3. 情報にアクセスするため
4. 最先端の学問を学ぶため
5. サブカルチャーを楽しむため
6. 最強国アメリカの言語だから、等々

英語史の観点からの解答

1. 近代の最強国がイギリス（大英帝国）だったから
2. 20 世紀の最強国がアメリカだったから
3. 21 世紀にかけて，国際コミュニケーションのニーズがますます高まってきたから
4. すべては歴史の結果

ありがちな誤解

1. 「英語は簡単な言語だから」

簡単であれば苦労しません

2. 「英語は論理的な言語だから」

言語間に差はありません

3. 「英語は世界標準だから」

世界人口の () 程度しか使えません

ありがちな誤解

1. 「英語は簡単な言語だから」
簡単であれば苦労しません
2. 「英語は論理的な言語だから」
言語間に差はありません
3. 「英語は世界標準だから」
世界人口の $\boxed{1/4}$ 程度しか使えません

英語（高校までの教科）と英語学 （大学からの学問）の違い

1. 英語学は，英語の観察を通じて英語（言語）とは何かを追究する学問分野
2. 英語学は，英語のあらゆる側面に関心をもつ
— 発音，スペリング，語彙，文法，方言，地理，社会，認知など

3. 英語学を学んでも，英語力は必ずしもつかないけれど・・・
4. 「英語史」 = 英語と英語話者集団がたどってきた歴史を通じて，現在の英語を深く理解しようとする学問分野

英語史の魅力

1. 英語と歴史（社会科）がミックスした不思議な感覚の科目！

冒頭で示した通り

2. 英語の見方が 180 度変わる！

次の a/an の問題を参照

3. 素朴な疑問にスッキリ答えてくれる！

別紙参照．質疑応答タイムで

問 3 : なぜ母音の前で a は an になるの？

1. a pen に対して an apple となるのは ,
2. もし a apple としてしまうと , () が連続してしまい ,
3. () しにくくなるからである .

問3：なぜ母音の前で a は an になるの？

1. a pen に対して an apple となるのは、
2. もし a apple としてしまうと、母音が連続してしまい、
3. 発音しにくくなるからである。

いえ，ちょっと待ってください！

1. () が連続すると，本当に () しにく
いですか？
2. 英語でもいくらでも例があります： the ap-
ple, my apple, two apples, etc.
3. なぜつなぎの音が n でなければいけないの
でしょうか？

いえ，ちょっと待ってください！

1. **母音**が連続すると，本当に**発音**しにくい
ですか？
2. 英語でもいくらでも例があります： the ap-
ple, my apple, two apples, etc.
3. なぜつなぎの音が n でなければいけないの
でしょうか？

英語史からの解答

1. もともとは $\bar{a}n$ のみ (one, an, a の 3 語は同語源).
2. つまり an pen であり an apple だった .
3. しかし , 子音連続を避けるために ,
4. 子音の前で n が落ちた .
5. my/mine pen, my/mine apple とも比較

問 4 : なぜ doubt のスペリングには 発音しない d があるの？

1. () 期の学者の知ったかぶり
2. d() (借金), indict (非難する), re()
(領収書), sa() (鮭), subtle (微妙
な), victuals (飲食物), etc.
3. 当時ヨーロッパで権威のあった () 語
にあやかったスペリング

問 4 : なぜ doubt のスペリングには 発音しない d があるの？

1. ルネサンス期の学者の知ったかぶり
2. debt (借金), indict (非難する), receipt (領収書), salmon (鮭), subtle (微妙な), victuals (飲食物), etc.
3. 当時ヨーロッパで権威のあったラテン語にあやかったスペリング

doubt の歴史

1. () 語 dubitāre (ためらう, うたがう)
two, double などと共通の語源
2. これが古い () 語で douter という形へ
すでに b が消えている
3. これが 1200 年頃に doute(n) として英語へ
かつて b があったことは誰も知らない

doubt の歴史

1. ラテン 語 dubitāre (ためらう, うたがう)
two, double などと共通の語源
2. これが古い フランス 語で douter という形へ
すでに b が消えている
3. これが 1200 年頃に doute(n) として英語へ
かつて b があったことは誰も知らない

4. 15 世紀にもともとのラテン語形を突き止めた学者が b の文字を復活
学ひけらし
5. 16 世紀にスペリングとしては doubt が確立
6. しかし、大多数の庶民は数百年のあいだ馴染んできた b のない発音を継続
7. 結果、現在も doubt なのに [daʊt]

() スペリング

1. ルネサンス期 (1500–1650) の学者のラテン語かぶれが原因
2. 書き言葉 (スペリング) の世界は学者のもの
3. 話し言葉 (発音) の世界は庶民のもの
4. スペリングと発音は別世界という時代
5. しかし, 後からスペリングと発音が一致した例も

語源的 スペリング

1. ルネサンス期（1500–1650）の学者のラテン語かぶれが原因
2. 書き言葉（スペリング）の世界は学者のもの
3. 話し言葉（発音）の世界は庶民のもの
4. スペリングと発音は別世界という時代
5. しかし、後からスペリングと発音が一致した例も

スペリングと発音が一致した例

advance (()), advantage (有利), adventure
(冒険), advice (助言), author (()), authority
(権威), falcon (ハヤブサ), fault (()),
language (言語), perfect (完全な), throne (王
座), verdict (評決), etc.

スペリングと発音が一致した例

advance (前進), advantage (有利), adventure
(冒険), advice (助言), author (著者), authority
(権威), falcon (ハヤブサ), fault (欠陥), language
(言語), perfect (完全な), throne (王座), verdict
(評決), etc.

問 5: なぜ 1 人称単数代名詞 I は常に大文字で書くの？

グループで考えられる理由を挙げてみよう！

-
-
-
-
-

中世のスペリングを覗いてみよう

1. $iiiiiiiiii = (\quad)$
2. 当たり前ではなかった「分かち書き」
日本語は「続け書き」
紙は貴重だった
3. i, j, I, J, Y

中世のスペリングを覗いてみよう

1. $iiiiiiiiii = \boxed{\text{minim}}$

2. 当たり前ではなかった「分かち書き」

日本語は「続け書き」

紙は貴重だった

3. i, j, I, J, Y

問 6 : なぜ名詞は *récord* で動詞は *recórd* なの？

ある年の大学入試センター試験の問題より

B 次の問い（問1，問2）の文中，下線部のある2つの語において最も強いアクセント（第一強勢）の位置を示した番号の組合せを，それぞれ下の①～④のうちから1つずつ選べ。

問1 This is the first recorded case of anyone surviving this disease.

- ① ①-③ ② ①-④ ③ ②-③ ④ ②-④

問2 Are you content with your present salary?

- ① ①-③ ② ①-④ ③ ②-③ ④ ②-④

「名前動後」のナゾ

1. 同じ単語でも「名」詞は「前」に,「動」詞は「後」にアクセント
2. *récord* (記録) – *recórd* (記録する), *présent* (プレゼント) – *presént* (贈呈する)
3. 現在, 235 語ほどが「名前動後」
4. 名詞・動詞を兼ねる 2 音節語はほかに千語以上あり

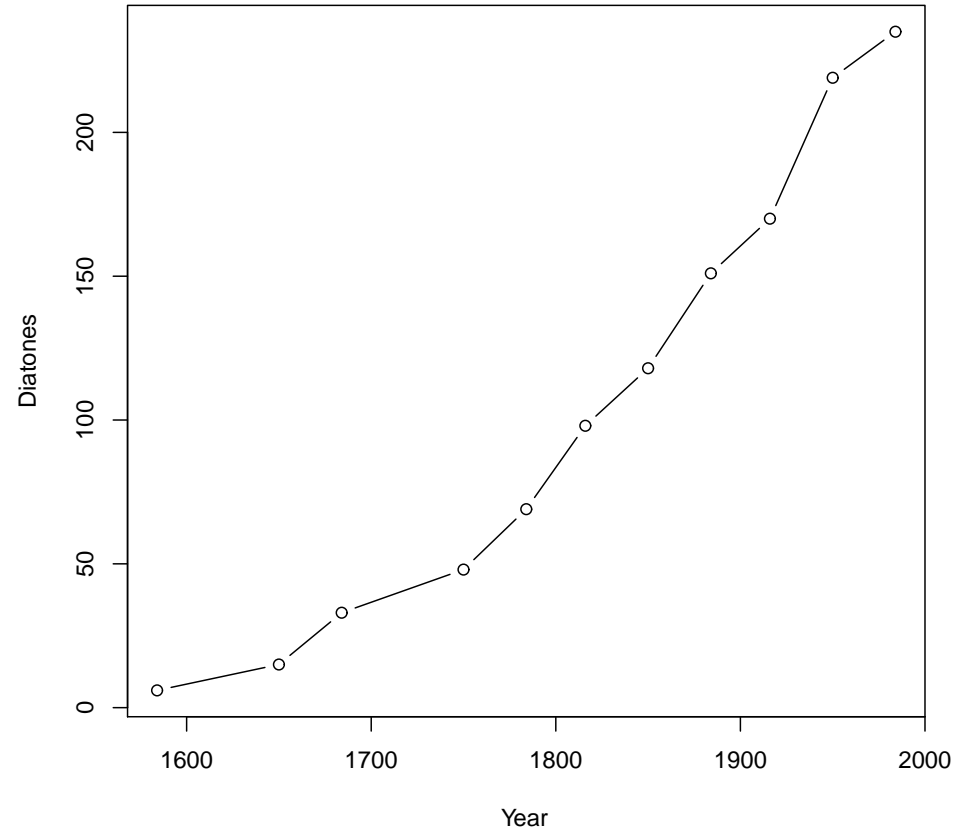
様々なパターン

1. 「名前動後」 (11.41%) : decrease, ()crease, export, ()port, object, ()ject
2. 「名前動前」 (72.24%) : access, comfort, offer, poison, promise, visit
3. 「名後動後」 (16.35%) : approach, award, design, result, return, support
4. 「名後動前」 (0%) : なし

様々なパターン

1. 「名前動後」 (11.41%) : decrease, increase, export, import, object, subject
2. 「名前動前」 (72.24%) : access, comfort, offer, poison, promise, visit
3. 「名後動後」 (16.35%) : approach, award, design, result, return, support
4. 「名後動前」 (0%) : なし

名前動後の増加



名前動後化の歴史

1. 16 世紀から 21 世紀に出版された 18 種類の辞書で調査
2. 1570 年出版の辞書で 3 語が初登場: outlaw (無法者; 非合法化する), rebel (反逆者; 反逆する), record (記録; 記録する)
3. その後, ゆっくりと順調に増加
4. ほぼ「名後動後」 「名前動後」への一方向

いずれ名前動後になりそうな単語

account, amount, approach, arrest, attempt,
award, command, compare, control, demand,
design, despair, disease, divorce, effect, excuse,
express, lament, machine, mistake, neglect,
police, regret, remove, report, request, result,
return, support, suppose, etc.

なぜ名前動後化しているの？

1. 15 世紀までに名詞と動詞が同じ形に

言語では意外とあり得ない現象

buffalo 構文

2. 16 世紀までに 2 音節語はアクセント可動に

本来, 英単語は () にアクセント, フラ

ンス・ラテン単語は () にアクセント

1066 年の () 征服

なぜ名前動後化しているの？

1. 15 世紀までに名詞と動詞が同じ形に
言語では意外とあり得ない現象

buffalo 構文

2. 16 世紀までに 2 音節語はアクセント可動に

本来，英単語は **前** にアクセント，フラ

ンス・ラテン単語は **後** にアクセント

1066 年の **ノルマン** 征服

3. 16 世紀 , 大量の 2 音節語をラテン語から借用

再びルネサンスのラテン語大好き学者

4. 同形で品詞が異なるなら , せめてアクセントの位置で区別しよう !

5. 言語では数世紀をかけての気長な変化は当たり前 !

改めて英語史の魅力を

1. 英語と歴史（社会科）がミックスした不思議な感覚の科目！
2. 英語の見方が 180 度変わる！
3. 素朴な疑問にスッキリ答えてくれる！

別紙参照．質疑応答タイムで

英語史に関心をもったら

- 唐澤 一友 『多民族の国イギリス—4つの切り口から英国史を知る』 春風社, 2008年.
- 寺澤 盾 『英語の歴史』 中央公論新社 中公新書, 2008年.
- 堀田 隆一 「hellog ~ 英語史ブログ」 <http://user.keio.ac.jp/~rhotta/hellog>, 2009年 ~ .
- 堀田 隆一 『英語史で解きほぐす英語の誤解 — 納得して英語を学ぶために』 中央大学出版部,

2011 年 .

- 堀田 隆一 「DMM ブログ 圧倒的腹落ち感！英語の発音と綴りが一致しない理由を専門家に聞きに行ったら，犯人は中世から近代にかけての「見栄」と「惰性」だった。」 <http://eikaiwa.dmm.com/blog/34958/> , 2017 年 .
- 堀田 隆一 『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』 研究社 , 2016 年 .

おわりに

1. 今回扱った疑問のほとんどは、私自身が中高生のときに抱いた素朴な疑問です。
2. 英語史は素朴な疑問に対してほぼ万能です。
3. しかし、まだ答えられない疑問もあります。
だから、勉強 研究を続けているのです。
4. 本講演の構成原案は山崎隆博先生によるものです。

ご静聴ありがとうございました！